

ゆかり

ゆかり

「レズビアン」

[提供：NAN-NET](#)

ゆかり

ゆかり

ゆ
か
り

土曜日に横浜まで自転車でゆきました。実は自転車の乗り方も先輩におそわったのです。

だから、自転車の遠乗りも二人の共通の楽しみなんです。もし、土曜日に横浜で自転車に乗った女二人連れを見かけた方がいたら、それは私達かもしれませぬ。

横浜ではまあ、お決まりの中華街や元町へ行きましたが、移動が早いのでとてもたくさん楽しんだような気がしています。

でも、片道2時間近いコースなので先輩の家へ帰りついたとき、私は結構ヘトヘトでした。

先輩は高校時代はバスケット部の主将でしたし、アスリート系なので平気です。なので、夕食は先輩の手作りラザニアとワインを少し。

食後も動きのトロい私に先輩は「先にお風呂、はいんなよ」と言ってくれました。

しばらくすると後片付けをすませた先輩が「いい〜？」とかいいながら入ってきてました。

（だいたいバスルームが8畳くらいあって猫脚大理石のバスタブですからね）
でも「洗ってあげる」といって両手でなでられたときには電気が走りましました。

「ね、こっち向いて」
顔をあげると唇をやわらかくふさがれ、抱きしめられました。

私も先輩の背中に手を廻し、胸と胸がおしつけあわれてやわらかくつぶれました。

私の体はすでに石鹸の泡でツルツルなのでその分、しっかりと抱き合うことになります。
おへその下あたりにサワサワした感触。先輩はもう一度

「洗ってあげる」

というと首元から手でなで始めました。
順繰りに手がからだをなでくだります。

両腕を降り、指のあいだ、指の一本ずつ、背中をまんべんなく、そこから手を廻して
胸を包むようにして、下から持ち上げるようなマッサージ。

「服の上から見るとより大きいよね。」

手はしばらくそこにいて、わたしのひざの力がぬける直前までそれをつづけました。
おなかと、わき腹もていねいになります。おへその下まで手が進むあいだに体が勝手に
にその先を期待していました。でもいくらなんでも

「はやく触って」

とはいえませんがね。

と、手は後ろへまわってお尻の山をなで、太ももへと降りて行って

「きれいな肌ね」

足の指も一本ずつ洗って、また、ひざ、ももと上がってきます。指先の進入に自然と脚がひらきました。

ゆっくり、ヒダの間を指がかきわけます。

蒼に達したときに、たまらず

「あぁっ」

と声が出ました。

手は休みなく動いて、後ろの谷あいもすべて余すところなく洗われてました。

クラシックな形のシャワーの機能は新しく、マッサージュエープで洗い流されました。肩から背中、胸、おなか、太もも、ひざ下からクルツとシャワーを上向けると、下から流し始めました。

石鹸はすぐ流れましたが、中から湧き出すものがとまりません。

先輩の首に腕をまわしてなされるままになっていました。

「きもちよくなってくれてるの？うれしい。このままいっちゃんいきましょう」

片手はわたしの背中にまわされて支えられ、もう一方の手が蒼とヒダとを撫で回します。

唇が肩や首元を這い回り、上がってきました。

わたしも、追いかけるように唇を求めます。

舌が入ってきて、同時に指も下から入ってきました。

そこで、体が自分の意思とは関係なく跳ね回り、世界がばら色に溶けました。

「風邪ひいちゃうからあがりましょ」

先輩の家のバスルームでイッテしまった私は、ベッドルームでは立場をかえることにしました。

ベッドの上で向き合って座ります。こうすると、キスをしながらも両手が自由になるので首元、肩、胸をなでていきました。

先輩も同じようにゆっくりなでてきます。

先輩の小ぶりな胸の先っちょをつまむと口から吐息がもれます。

わき腹から腰を抱えるようにしてひざを少し立て、脚を交叉させます。

この体勢だと密着度は少ないけれど、お互い同時に触りあえますよね。

お互いの大事なトコロが向き合って、少し開いたのが見えました。私のはすでに湧き出すうるおいでぬれていました。

先輩の大きな目の蒼にどうしても目がいきます。

そっとなつまむと長身の先輩が体を波打たせて肩にもたれてきました。

手のひらをかえして、中指をのばして奥をさぐります。チュプツという感触とともに

ヒダの間にすいこまれました。

ぬらした指はすべりがいいので、ときどき指をぬらしながら蒼をこすりました。先輩のあえぎ声があると私も興奮してきます。

こんどは、両側のヒダで包んでコリコリと転がしてみました。喘ぎ声が泣き声のようになつてきました。

何度目だったか、中指をおくへ差し込んだら入口のところもヒクヒク波打っています。入口の周りをそつとなぞるように円を描いてみました。

「いれて！指、いれて！」

先輩が腰をうかせてきます。

ゆっくりと出し入れしながら、次第に奥深くまで指をしずめると、手のひらに蒼があたります。

そのままのひらで押しつぶすようにして回転させました。

「あーっ！あーっ！」腰をおしつけてくるのを感じながら、中に入っている指をすこしまげてやわらかい内壁も探ってみました。

「もういい！もうだめ、気が狂う！」

中に入れて指はもちろん、手のひらまでぬれてしまったけれど、反対側の腕は先輩の背中にまわして体を支えています。もたれかかりたり、のけぞったりするので、

離れたら倒れてしまいそうでした。

そうつとベッドに寝かせたら、

「ね、入れて」

と、言われました。

いつものモノにコンドームをかぶせ、少し睡でぬらします。

そして先つちよでヒダを掻き分けるようにして押すとツルツと飲みこまれるように入っていきました。

少し入れて抜き、またもう少し奥までいれます。また抜いて、もう少し。

三回か四回にわけて徐々に奥まで進むようにしました。

こんどはそこからゆっくり抜き差します。先輩の息遣いが聞こえて腕を引っ張られました。

片手は使っていますから、片手で先輩の身体を抱くようにします。

先輩も両手で抱きしめてきました。が手を動かせるように少し半身にひらきます。

“先輩ごめんね”と思いますが、しかたありません。

だんだん早く動かすようにしてゆくと、先輩もあわせて腰を浮かせてきます。

急に動かすのに抵抗を感じるようになります。中でつかんでいるようです。

その分、力をいれてゆつくりと抜き差しました。そして、中の天井（おへソの裏のへん）を先端でこすり上げるように動かしているうち

「ハア」
という大きな吐息とともに先輩の身体から力が抜けて行きました。

ゆかり

ゆかり

二〇〇八年三月三十一日 投稿

掲載元 官能小説セレクション

(URL: <http://www.kannou.cc/>)

提供 NAN・NET

(URL: <http://www.nantv.com/index1.htm>)

投稿された文章の著作権は、全てNAN・NETに帰属
します。当サイト内の文章、音声等の情報の無断
転載、無断引用は禁止です。情報の転載、引用、
掲載、取材等をご希望の場合は、必ずご一報くだ
さい。上記の要望に対し当社が問題が無いと判断
した場合、他メディアにおいて、投稿された情報が
掲載等される場合があります。

ゆかり